

実験装置 震度7でも守ります



研究施設向け耐震補強枠 大阪大提供

大阪大など、耐震補強枠開発

壁や床に直接固定するのが難しい実験装置やコンピュータ、配管などを思い通りのレイアウトで固定できる研究施設向けの耐震補強枠を大阪大の中谷和彦教授らが開発した。震度7の揺れでも装置の落下や転倒を避けられるという。すでに2大学の研究室に採用された。

一つ部屋があるような形で設置、枠の内側と外側の自由な位置に実験装置や配線、照明器具、配管などを固定できる。東日本大震災では東北大で研究設備の被害額が約245億円に上り、研究が大きな打撃を受けた。だが、揺れ対策で実験装置などを固定したくても、床や壁の材質などの関係でうまくいかないことが多いという。補強枠の設置費は1平方メートルあたり約12万円。今後、低コスト化を目指すという。

(小堀龍之)